

研修会報告

令和元年 12 月 7 日

文責：播磨 晋太郎

研修会名：第 3 回生物化学分析部門研修会

テーマ：「常用基準法改定に備える～JSCC から IFCC へ（ALP、LD）～」

開催日時：令和元年 11 月 30 日(土) 13：30 ～ 16：50

会場：東北大学医学部 1 号館 第 1 講義室

<プログラム>

【講演 1】

「新 ALP/LD 試薬 開発のあれこれ」

講師：株式会社 シノテスト R&D センター 生化学ユニット
生化学チーム 中尾 友作 先生

【講演 2】

「ALP 測定における JSCC 法と IFCC 法の比較—小腸型、胎盤型アイソザイムの反応性—」

講師：東北大学病院 診療技術部検査部門 検査部
後藤 好恵 技師

「LD の JSCC 法と IFCC 法の比較」

講師：仙台市立病院 臨床検査科 小林 航太 技師

【特別講演】

「ALP および LD 常用基準法改定の経緯と現場に求められる対応策」

講師：日本大学病院 臨床検査部 技術長
荒木 秀夫 先生

日臨技生涯教育研修制度：専門 20 点

参加者：会員 67 名、非会員 3 名、講師 4 名 計 74 名

【内容】

日本臨床化学会より血清アルカリホスファターゼ(ALP)及び乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)の常用基準法改定の提言がなされました。これに伴い、2020 年 4 月 1 日より 1 年間の移行期間中に試薬を切り替える必要があります。本研修会は、IFCC 法への移行の意義や検査値の変動について検査室から情報発信できる知識を身につけることを目的に企画しました。

講演 1 では、株式会社シノテストの中尾友作 先生に IFCC 法へのメーカーの対応に関してご講演頂きました。講演の中で、IFCC 法は ALP、LD ともに試薬の pH の影響により、JSCC 試薬と比較して安定性に問題がある事、検査室の切り替え時期が重なることで、メーカーとして試薬のセッティングに伺うのに時間がかかる可能性があるとの報告がありました。

講演 2 では、ALP の IFCC 法の使用経験を東北大学病院の後藤 技師に、LD の IFCC 法の使用経験を仙台市立病院の小林 技師にご講演頂きました。内容としては、日本臨床化学

から示されたデータと実際に施設で検討した結果を提示して頂き、ALP、LDともに日本臨床化学から示されたデータと自施設でのデータに相違ない事が確認できたという報告がありました。しかしながら、ALPについては、一部の診療科で換算式と解離するため、測定法変更については、十分な説明が必要との補足もありました。

特別講演では日本大学病院 臨床検査部 技術長の荒木秀夫 先生に「ALP および LD 常用基準法改定の経緯と現場に求められる対応策」というテーマでご講演頂きました。IFCC法に変更しなければならない経緯について、丁寧に説明を頂きました。また、検査室の対応については、日本臨床化学のホームページに掲載されたばかりの Q&A 集の中から、特に説明が必要な内容を抜粋して、詳細に説明して頂きました。試薬の切り替えに向けて動き出さなければならないと強く思いました。

多くの会員に参加して頂き、常用基準法改定に関する関心の高さが伺えました。来年度も継続して、常用基準法改定に関する研修会を企画していきます。また、今後も宮城県臨床検査技師会員にとって価値ある有益な研修会を開催していきたいと思えます。